

球磨川(川辺川, 第二堰堤上流, 熊本県)



研究室のメンバー

教授	1名	博士後期課程	5名 (社会人ドクター4名)
准教授	2名	博士前期課程	6名
助教	1名	学部生	1名
専任研究員	1名		
秘書	1名		

2022年3月撮影

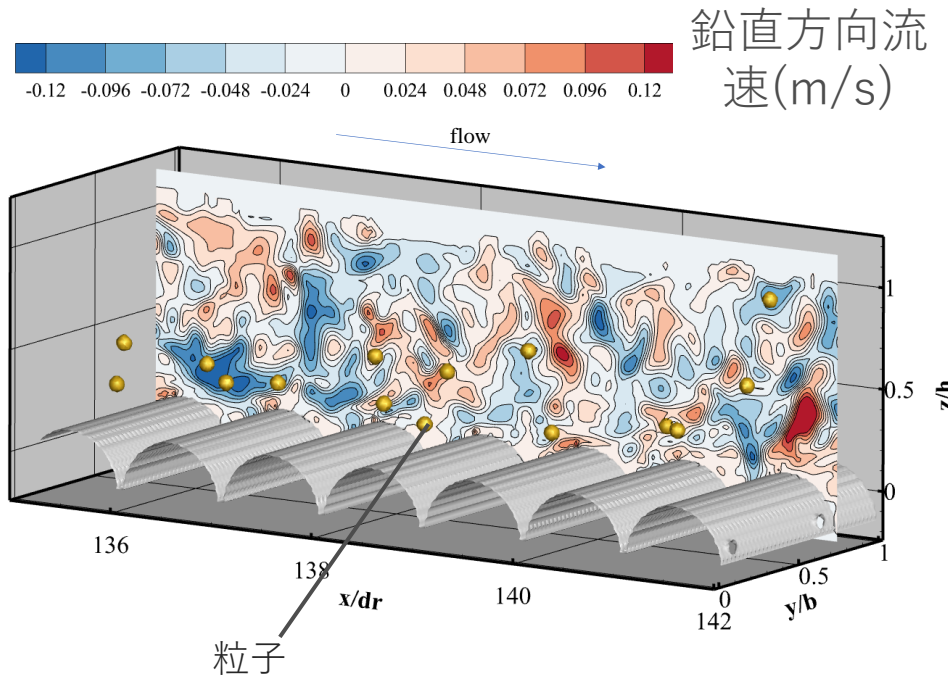


現在取り組んでいる研究プロジェクト（持続可能でレジリエントな流域治水技術の開発）

研究室では、山地から河口まで河川を大きく捉え、氾濫・水害リスクを軽減し、安全で豊かなくらしを支えるための**新しい治水技術の開発**を目指しています。このため、実際の課題解決に向けた応用研究とそれを支える基礎研究を実施し、ゼミ等を通じて、両者の課題の共有・成果の反映をしながら研究しています。

基礎研究

例：開水路の乱流構造と土砂運動に関する研究



応用研究

例：令和2年7月球磨川豪雨水害における人吉市街地の氾濫機構と防災まちづくりに関する研究

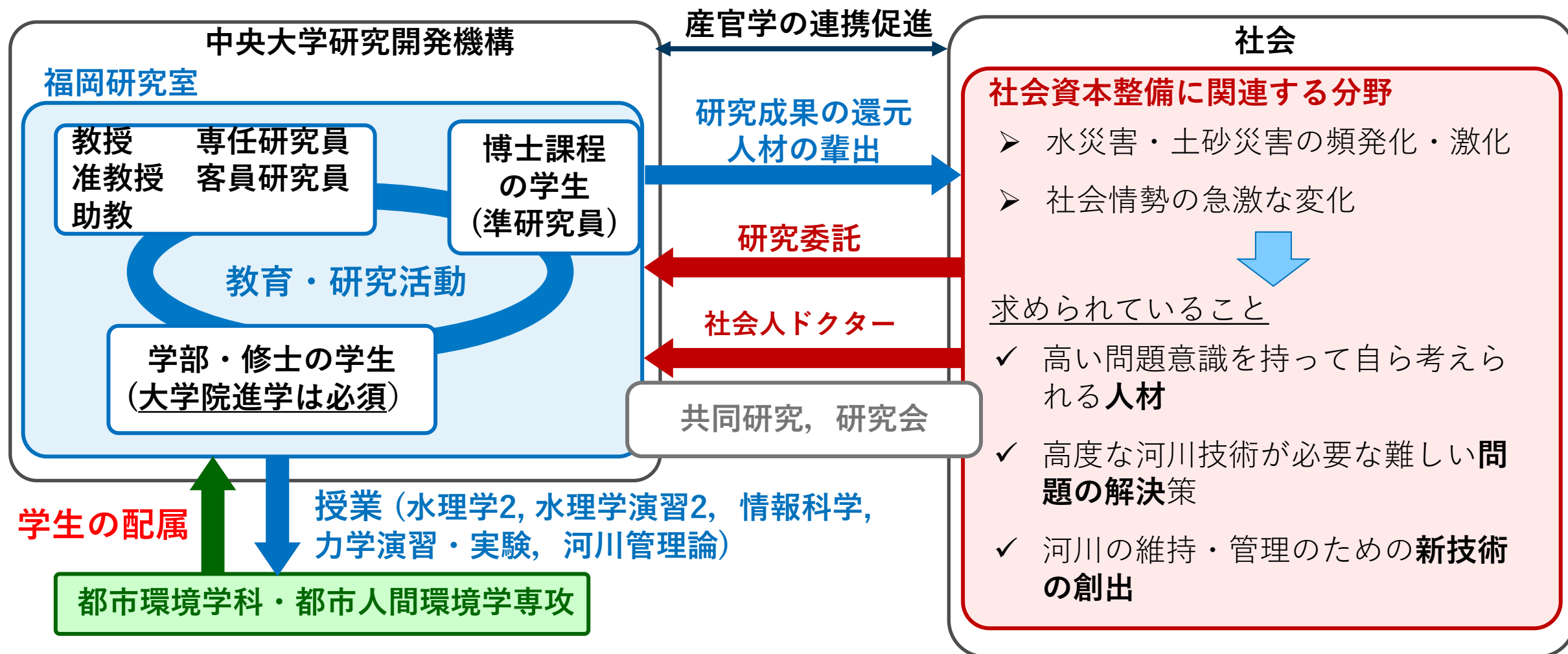
豪雨時の市街地における氾濫現象や浸水リスクを解明し、住民避難や水防災・減災まちづくりについて検討する。



両者の課題の共有
成果の反映



福岡研究室は2004年4月に立ち上げられ、来年で20年目を迎える。充実した研究組織の下、技術的に解決の難しい河川の課題について研究・技術開発するとともに、それらを担う人材を育成してきた。これまでの18年間では、18名の博士、38名の修士を輩出し、主として河川に関わる技術者や研究者の育成に貢献している。



研究を通じた学生教育

研究の議論を通じて学ぶ機会

ゼミでの発表

- ・毎週1回の研究発表の場
- ・研究室全体での議論の場

国内学会での発表

国際学会での発表

→受賞件数：65件(2022現在)

水理研究会での発表

東大, 埼大, 理科大との共催の研究会での発表(1~153回)

研究室配属

大学院進学

大学院修了

卒業生38名

博士後期課程進学 (博士取得者数：18人(社会人含む))

→研究機関 (国・大学等)

公務員 (国・自治体)

建設コンサルタント

建設会社

その他 (鉄道・プラント等)

各方面で卒業生が活躍

社会との関わりの中で学ぶ機会

河川・流域技術研究会への参加

- ・福岡研と国土交通省が共催し, 研究者と河川管理・政策に携わる技術者が議論する研究会への参加(1~163回)

現地河川の見学や河川事務所等への成果報告・発表

就職先（福岡研の卒業生41人中のデータ）

